

第4回 葛飾区地域福祉活動計画作業委員会 議事要旨

日時：平成18年8月30日（水）午後2時～

場所：地域福祉・障害者センター1階 社協研修室

■委員出欠席

葛飾区自治町会連合会	加賀美 勇	出席
葛飾区 民生委員児童委員協議会	阿部 徳三	出席
かつしかVネット	田中 厚志	欠席
学識経験者 (明治学院大学)	河合 克義	出席
学識経験者 (明治学院大学)	菅野 道生	出席
学識経験者 (東京都社会福祉協議会)	池田 明彦	出席

葛 飾 区	平山由美子	出席
葛 飾 区	福井 宏和	出席
葛 飾 区	谷部 勉	出席
葛 飾 区	佐藤 秀夫	欠席
葛飾区 社会福祉協議会	山下 美實	出席
葛飾区 社会福祉協議会	小山美智子	出席
葛飾区 社会福祉協議会	池嶋 雅人	出席

(敬称略)

■議事次第

1. 開 会
2. 議 事
(1) 地域福祉活動計画の基本目標及び体系等（素案）について
3. その他
4. 閉 会

■配布資料

- 資 料 「葛飾区地域福祉活動計画」における基本計画の考え方（素案）
- 参 考 葛飾区における福祉のまちづくりに関する区民意識調査報告書

1. 開 会（小山委員より）

2. 議 事

（1）地域福祉活動計画の基本目標及び体系等（素案）について

（委員による検討・確認事項の要約）

- ・ 策定委員会の議事録を作業委員会に配布し、議論の様子を報告してほしい。
- ・ 小地域福祉活動は、地域の人に対するPR活動としても有効である。
- ・ 住民が主体となって小地域福祉活動をつくっていけるかが課題である。
- ・ 社会福祉協議会の活動と行政や町会活動などの活動内容や範囲が重ならないよう、整備する必要がある。
- ・ 本計画は、住民の行動計画であるべきであり、基本理念や基本目標の中に地域住民という言葉を出すなど、表現を工夫する必要がある。
- ・ 基本理念が長すぎる。前半部分を削除し、「支えあいとふれあいがあふれる「わがまち葛飾」の実現」はいかがか。住民がわかりやすいものである必要がある。
- ・ 基本目標について、地域福祉活動のしくみ、またなぜしくみをつくらないといけないのかがわかるような表現のしかたが求められる。
- ・ 地域活動を住民が担っていくという意欲がもてるような表現にすべきである。
- ・ 目標設定の背景について、区民意識調査だけではなくほかの視点からの分析も必要ではないか。
- ・ 社会福祉協議会がやることと住民がやることの整理ができていない。住民の行動計画と社会福祉協議会の事業計画を明確にわけなければならない。
- ・ 小地域福祉活動のネットワークは、既存の行政のネットワークを活用することが効率的でよいと思う。
- ・ 小地域福祉活動は住民自らが主体となって活動をつくっていくことが大切なのであり、行政がつくることはおかしい。
- ・ 自分たちの課題を自分たちで解決していこうという意欲をもった住民の育成、掘り起こしが必要である。
- ・ 小地域福祉活動の担い手といった場合、新しい動きであるボランティアと地域を基礎とした町会等の既存組織の活動の両方を視野に入れて考えるべきである。
- ・ 区内の社会福祉法人を社会福祉協議会の活動につなげていく視点も大切である。社会福祉法人として、地域貢献できるかというのが法人の関心でもあるので、社会福祉協議会がよびかけるとよいのではないか。
- ・ 社協と区内施設や民間の専門機関等との横のつながり、連絡調整が大切である。
- ・ 小地域ではなく、もうすこし大きな範囲のネットワーク化が必要なこともある。
- ・ 災害ボランティア活動のマニュアルづくりを進める必要がある。

3. その他

- ・ 議事要旨、委員名簿をHPに掲載することについて、一同承認。